

# 経験目標の解説

## 【A】経験すべき診察法・検査・手技

### 1) 経験目標の達成度に関する判断基準の考え方

臨床研修の到達目標の中の経験目標には「A 経験すべき診察法・検査・手技」が挙げられている。これらの項目は単に経験すれば研修したとみなされるのではなく、その大半は各項目に記載されている診療行為等が「できる」ようになることを求めている。しかし、その場合にどのような基準で「できる」と判断するのかは明示されていない。

ここでは、研修医を指導する上で、これらの項目をどの程度経験させれば初期研修の到達目標を満たしたとみなすのか、その判断基準を例示する。

#### competency 評価

「A 経験すべき診察法・検査・手技」の中に含まれる以下の到達目標の達成度の判断については、competency 評価の手法が参考になる。

- (1) 医療面接
- (2) 基本的な身体診察法
- (5) 基本的治療法
- (6) 医療記録
- (7) 診療計画

コンピテンシー評価とは、(医療者として)望ましい行動を特定して明示し、それと実際の学習者(医療者)の行動を「具体的な事実に基づいて」比較して行う評価である。コンピテンシー評価については、「第3章 評価方法 コンピテンシーモデルを用いた「行動目標」の評価」を参照されたい。

コンピテンシー評価を行う場合に、具体的に明示する評価基準の詳細をわが国全体として統一することは困難であり、また現場に適した評価にならないことが懸念される。本ガイドラインや参考資料、そして何よりも現場の関係者の意見などを元に、各現場で作成することが望ましい。

但し、「(6)医療記録」の「4)CPC(臨床病理検討会)レポートを作成し、症例呈示できる」に関しては、新医師臨床研修制度に相応しいガイドラインが存在しなかったため、新たに日本病理学会に作成して頂き、次項に掲載したところである。

### 具体的到達度の目安による評価

「A 経験すべき診察法・検査・手技」の中に含まれる以下の到達目標の達成度の判断については、到達度の具体的目安を個々に設定し、それを達成した場合に目標を達成したとみなすことが望ましい。本章では、到達度の具体的目安を目標毎に示した。

A 経験すべき診察法・検査・手技

(3) 基本的な臨床検査

(4) 基本的手技

(大滝 純司)